新発田地区納税貯蓄組合連合会長賞

当たり前の生活を支える税金

阿賀野市立 水原中学校　３年　岩　山　　楓　さん

「税金」と聞いて私はこれまで「大人が払うお金」というイメージしかありませんでした。自分にはまだ関係ないものだと思い、税金がどのように使われているかを深く考えたことはありませんでした。しかし、学校で税金について学び、ニュースを見るようになってから、その考えは大きく変わりました。

私が税金の大切さについて考えるようになったきっかけは、災害のニュースを見たことです。地震や大雨によって大きな被害を受けた地域では、消防や警察、自衛隊の人たちが懸命に人命救助や復旧活動を行っていました。また、壊れた道路や橋を直したり、避難所を運営したりするためにも、多くのお金が必要になることを知りました。そのとき私は、「もし税金がなかったら、困っている人を助けたり、元の生活に戻るための支援したりすることは難しいのではないか」と考えました。普段は意識することが少ない税金ですが、非常時には多くの人の命や暮らしを支える大切な役割を果たしていることに気づきました。

さらに、税金は災害のときだけではありません。私たちが毎日通っている学校の校舎や教室の机や椅子、黒板、エアコンなど、安心して勉強できる環境にも税金が使われています。また、登下校で利用する道路や歩道、信号機なども税金によって整備されています。これまで私は、それらがあることを当たり前だと思っていました。しかし、その「当たり前」は、多くの人が働いて納めた税金によって支えられているということを知り、日常の見方が変わりました。

一方でニュースでは税金の使い方が問題になっているという話を目にすることがあります。必要ではないことにお金が使わたり、公金の使い方について国民から疑問の声が上がるのを見ると、イラつきます。税金は、多くの人が一生懸命働いて納めた大切なお金です。だからこそ、本当に必要なことに使われるべきだと思います。

私は将来、働くようになれば税金を納める立場になります。そのときには、「ただ払わなければならないお金」と考えるのではなく、「社会を支え、困っている人を助けるためのお金」という意識を持ちたいです。そして、税金の使われ方にも関心を持ち、社会の一員として責任のある行動ができる大人になりたいです。

税金は普段、あまり目立つ存在ではありません。しかし、私たちが安心して学校に通い、安全に暮らし、困ったときは助け合える社会があるのは、多くの人が納めた税金のおかげです。私はこれからも税金について学び、その大切さだけでなく、正しく使われているかにも感心を持ちながら、よりよい社会について考えていきたいと思います。